

## 教育実践総合センター平成 21 年度活動概要

### 1. 構成員

センター長 (併任)

教授 岡 直樹

専任教員

《学校教育相談実践部門》

教授 岡 直樹 教授 栗原慎二

《教育実践研究開発部門》

准教授 池田 隆

相談員

エリクソン・ユキコ, 勝部奈美, 外山智絵, 小島奈々恵

客員教員(年度内の3期を分任)

河野龍彦, 北野和則, 岡田眞江 (いずれも広島県立教育センター)

事務補佐員

山本佐織, 竹ノ中亜由美

### 2. 主催・共催による公開講演会・シンポジウム・研究会等の活動

#### (1)子どもの心と学び支援セミナー

「明日につながるアセスメント」－WISC-IIIの結果から指導へ－

期日：平成 21 年 6 月 10 日 (水)

場所：広島大学教育学部第一会議室

講師：バーンズ 亀山 静子 (ニューヨーク市公認スクールサイコロジスト)

対象：現職教員、教職志望の大学生・大学院生

参加者数：75 名

《WISC-IIIの基本的知識の理解と、実際の事例検討を通して、アセスメントのあり方を考える勉強会となった。事例を用いた検討では、検査結果を鵜呑みにするのではなく、検査結果を活用して多面的に子どものニーズを捉えることの大事さ、さらに子どもの苦手な部分だけではなく、得意な部分に焦点を当てることの大事さについてお話しいただいた。》

#### (2)子どもの心と学び支援セミナー

「算数文章題解決へ向けての学習援助」

期日：平成 21 年 11 月 3 日 (火)

場所：広島大学教育学部第一会議室

講師：多鹿 秀継 (神戸親和女子大学・教授)

対象：現職教員、教職志望の大学生・大学院生

参加者数：77 名

《「どうすれば、子どもは算数文章題を適切に解くことができるようになるのか」というテーマを柱に、認知心理学的基礎知識も交えながらお話いただいた。その中で、算数の文章解決に影響を与える要因(問題のタイプ、先行知識、指導法)や解決の過程(下位過程としての理解過程、解決過程など)を理解することが、算数文章題解決への援助をする上で大切であることが指摘された。》

#### (3)子どもの心と学び支援セミナー

「人間関係づくりの基本－つながる場・認められる場・役立つ場－」

期日：平成 22 年 1 月 9 日 (土)

場所：広島大学教育学部第三・四会議室

講師：神山 貴弥 (同志社大学・教授)

対象：現職教員、教職志望の大学生・大学院生

参加者数：77名

《私たちは集団や社会の中で、誰かと関わりながら生きています。それは、人間には本来、他者とかかわりたいという欲求、つまり社会的欲求が備わっているからです。子どもたちの問題行動(不登校や反社会的な暴力行為等)は、この社会的欲求の不充足からある程度解説が可能です。

本セミナーでは、まずこうした人間の社会的欲求の基本的な構造について解説します。その上で、子どもたちの人間関係づくりを社会的欲求の充足という観点から進めること一つながる場・認められる場・役立つ場を設定することの有用性について触れます。そして、異年齢交流活動が子どもたちの社会的欲求の充足に好適であるが、それがうまく機能していない具体例も示しながら、子どもたちの人間関係づくりのあり方について提案していただいた。》

#### (4)子どもの心と学び支援フォーラム

「子どもの心と学び支援」

期日：平成22年2月11日(木)

場所：広島大学教育学部L205講義室

プログラム：13:00～14:40 基調講演 「子どもの心と学びへの支援」

講師：大野 精一（日本教育大学院大学・教授）

14:50～16:50 シンポジウム 「子どもの心と学び支援」

司会：岡 直樹（広島大学大学院教育学研究科・教授）

話題提供：栗原 慎二（広島大学大学院教育学研究科・教授）

児玉真樹子（広島大学大学院教育学研究科・講師）

指定討論者：大野 精一（日本教育大学院大学・教授）

森 敏昭（広島大学大学院教育学研究科・教授）

栗原 築波（広島県教育委員会教育部指導第一課教育指導監）

対象：現職教員、教職志望の大学生・大学院生

参加者数：136名

《新学習指導要領にも示されているように、今まさに「個に応じたきめ細かな支援（指導）の充実」が求められています。そこで、当センターでは、平成19年度から子どもの心や学びへの支援を行う相談室「にこにこルーム」を開設し、児童生徒の学習のつまずきや学習意欲の低下といった学習の問題やいじめ・不登校といった心の問題解決に向けた支援活動（学生実習）を行ってきました。今回のフォーラムでは3年間の支援活動を振り返り、本活動における教育現場での有効性について、理論・実践の両面から考察していきます。

まず、大野精一先生に、子どもの心の面や学習面への支援の必要性やそのための実践的指導力の育成についてのご講演をしていただき、その後のシンポジウムでは、本活動の実際について、教育内容及び方法の具体を示すとともに、学生への教育効果や子どもの変容等について、行動観察やデータ等に基づいて、その成果や有効性に係る情報を提供していきます。そして、最後に、指定討論者やフロアからの感想や意見をもとに、心と学びの支援プログラムの教育現場での有効性や実践に必要な知識・技能の育成について考え、これからの教育実践につながる内容にしていきたいと考えています。》

#### (5)教員養成講座

「小学校教師に求められる授業力・生徒指導力・学級経営力UP！」

期日：平成21年12月12日(土)

場所：広島大学教育学部L204講義室

講師：大垣 由紀子（東広島市立東志和小学校 教務主任）

後東 貴之（呉市立川尻小学校 生徒指導主事）

巖迫 あゆみ（東広島市立高屋西小学校 教諭）

コーディネーター：池田 隆（広島大学大学院教育学研究科・准教授）

対象：学部生・大学院生

参加者数：54名

《本講座は、小学校教師としての実践的指導力の向上と必要な資質を養うことを目的として、現職教員（教務主任、生徒指導主事、2年目教員）により、学級づくりの進め方や生徒指導及び保護者対応、授業技術等をテーマとした講話・演習、模擬授業（道徳）を行った。その後、質問コーナーを設け、初任者研修の実際や特別な支援を要する児童への対応等に係る質問について、3名の先生にそれぞれの立場から、具体的実践例を示していただいた。》

### (6)第14回学習科学広島フォーラム

(広島大学大学院教育学研究科学習開発学講座との共催)

シンポジウム「ネットいじめとピア・サポートーネットいじめに〈子ども〉は何ができるか」

期日：平成21年7月12日（日）

場所：広島大学教育学部第三・四会議室

話題提供者：ヘレン・アレグザンダー・カウイ（広島大学大学院教育学研究科・客員教授・イギリスサリー大学教授）

竹内 和雄（大阪府寝屋川市教育委員会・指導主事）

指定討論者：林 孝（広島大学大学院教育学研究科・教授）

コーディネーター：栗原 慎二（広島大学大学院教育学研究科・教授）

対象：教育関係者全般

参加者数：80名

《「ネットいじめ」が子どもたちの生活に入り込んできている現状に、文部科学省や行政の対策はメディア・リテラシーの強化や道徳性の開発という観点で語られることが多く、大人が子どもを守るという枠組みが前提となっているようです。本フォーラムでは、ヨーロッパや日本のネットいじめの現状と対策について報告していただくとともに、これからの対策のあり方について、特に、「子どもたちは子どもたちの問題にどう取り組むことが可能なのか」という観点から、新たな光を当ててみました。子どもの問題解決には子どもの知恵と力を活用する必要があるという観点からの指摘がなされ、実践例として大阪府寝屋川市の事例が紹介されました。》

### 3. センター専任教員による学外講演等の活動

生徒指導・教育相談、認知カウンセリング、学習指導、学習支援、アセスメント等に関する講演や演習の指導

期間：通年（120回）

対象：主に教員、保護者

人数：約6600名

「いじめの早期発見・早期対応」島根県立教育センター 平成21年度生徒指導主事研修 6/15, 松江市, 70名

「いじめ問題の理解と対応」独立行政法人教員研修センター 平成21年度生徒指導指導者養成研修 6/25, 筑波市, 100名

「平成21年度生徒指導研修講座」呉市教育委員会 8/5 110名

「小中連携における生徒指導の在り方」呉市立白岳中学校区小中一貫教育講演会 8/10 70名

「予防的生徒指導の推進～協同学習を取り入れた授業づくり～」広島市教育委員会 平成21年度学校力の向上を目指した実践研究合同発表会, 8/25, 500名

「東広島市小・中学校生徒指導主事及び生徒指導担当者研修会」東広島市教育委員会 10/14 55名

「社会技能科で目指したもの」新潟市立鳥屋野中学校区文部科学省研究開発校研究発表会 10/19, 350名

「ブリーフセラピーを生かした学校カウンセリングの実際」岐阜県高等学校教育相談研究協議会 平成21年度研修会, 10/23, 150名

「いじめ・不登校等への早期支援プログラムについて」広島市教育委員会，第2回不登校対応担当教員研修会，200名

「平成21年度JICA研修『アフリカ地域（英語圏）INSET運営管理』」日本国際協力センター 12/10 22名

「困難な事例への関わりー保護者とのパートナーシップの構築のために」大分県公立保育所所長・主任会，大分県公立保育所所長・主任研修，12/11，70名

「生徒指導と法～学校トラブル相談事例集から～」平成21年度呉市自立支援サポート事業第7回専門委員会 2/25 15名

#### 4. 研究活動

##### (1) センタープロジェクト研究

広島市との連携，研究協力に基づく共同研究「協同学習における教師の指導と子どもの学びに関する実証的研究」（研究科長裁量経費による研究）

##### (2) 附属学校・公立学校との共同研究

新潟市立鳥屋野中学校区「文部科学省研究開発指定：社会技能科教育課程開発研究」（継続）

三原市立第三中学校「安心感・充実感のある学校生活の創造」～開発的（一次的）支援を中心とした積極的生徒指導の実践～（新規）

##### (3) その他外部資金導入による研究

現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）「子どもの心と学び支援プログラムの展開ー「にこにこルーム」を核とした学生参加型地域サービスと教員養成ー」

#### 5. 教育・社会貢献事業

##### (1) にこにこルーム（学校心理教育支援室）

《学習相談》

にこにこルームの学習相談に参加した学生は47名であった。

##### ① 前期(2009年5月13日(水)から2009年7月29日(水))水曜日の活動

東広島市内の小学校9校で，4年生以上の児童に対し，募集の案内を配布した。そして，4月20日，21日に電話による受付を行った結果，応募者は53名であった。その中から，16名(新規12，継続4)の小学生を抽選で選んだ。この16名の小学生に対して，5月13日(開講式として，保護者を交えオリエンテーション)から，7月29日(修了式)まで，毎週水曜日に認知カウンセリングを11回行った。時間は，小学生については，午後5時30分から7時20分までの110分で，算数の認知カウンセリングを60分，遊びを45分，保護者を交えた帰りの会を5分行った。中学生については，3名の中学1年生を対象に数学の認知カウンセリングを60分行った。また，セッション終了後，毎回ケース検討会を行った。

##### ② 後期(2009年10月28日(水)から2010年2月17日(水))水曜日の活動

東広島市内の小学校9校で，4年生以上の児童に対し，募集の案内を配布した。そして，10月13日，14日に電話による受付を行った結果，応募者は27名であった。その中から，17名(新規11，継続6)の小学生を抽選で選んだ。この17名の小学生に対して，10月28日(開講式として，保護者を交えオリエンテーション)から，2月17日(修了式)まで，毎週水曜日に認知カウンセリングを計14回行った。時間は，小学生については午後5時30分から7時20分までの110分で，勉強を60分，遊びを45分，保護者を交えた帰りの会を5分行った。中学生については，1年生3名，3年生1名を対象に60分から90分認知カウンセリングを行った。また，セッション終了後，毎回ケース検討会を行った。

##### ③ その他(サマー・セッション及びスプリング・セッション)

2009年8月3日から2009年8月5日の3日間，1回あたり60分，小学生17名を対象に認知カウンセリングを行った。また，2010年3月2日から4日までの3日間，1回あたり60分から90分，小学生16名を対象に認知カウンセリングを行った。

水曜日以外の学習相談は，にこにこルーム4件，にこにこ千田ルーム11件であった。

### 《学校臨床相談》

一年間を通じて、ここにこルームの活動の一環として、臨床心理士による臨床相談活動を行うとともに、支援員らのケース検討会およびセミナーを開催した。

#### ① 臨床相談（毎週木曜日・土曜日に実施日）

総来談件数 59 件，延べ相談ケース数：247（1/30 現在）

#### ② 定期ケース検討会（原則木曜日 18:00～20:30）

延べ 23 回

### (2) 学校コンサルテーション活動

概要：公立学校での生徒指導・教育相談に関するコンサルテーション

時期：通年（48 回）

対象：教員および保護者等

人数：延べ約 100 名

### (3) フレンドシップ事業「ゆかいな土曜日」

本学部では教育実践総合センターの教員をはじめ学内委員 12 名から成るフレンドシップ事業運営委員会を組織し、その運営にあっている。

#### ① 活動の趣旨

「教員養成学部の学生が、地域の小学校に在学する児童および住民の方たちと共に自然体験・勤労体験などの直接体験活動を行うことにより、教師として豊かな資質を養うと同時に児童の生きる力を育て、地域の人々と児童、学生の交流を深める」ことを趣旨とし、平成 9 年度より活動を開始して、21 年度は 13 年目である。

#### ② 活動の形態

21 年度は「地域教育実践 I・II」の授業として通年で開講した。

#### ③ 実施内容

活動は、H21.5 から H22.2 にかけて、月例活動 9 回、大学内シンポジウム 1 回を行った。

月例活動の活動時間帯は、午前 10 時から午後 4 時。参加学生は、受講学生と単位を必要としないボランティア学生を含め約 105 名。児童は東広島市立小学校 37 校から募集した 154 名。地域の協力者は、東広島市下見地区を中心とする 19 名。児童 10 名と学生 5 名で 1 班とし、16 班を編成し、工房（4 班）、発明家（4 班）、エンターテイメント（4 班）、地球船シベンゴ（4 班）の 4 グループに分けてグループ活動や、畑での栽培活動や餅つきなどの全体活動を行った。

### (5) 学外から委嘱された委員等

- ・ 日本教育心理学会，理事
- ・ 日本心理学会，専門別議員（第 1 部門）
- ・ 学会連合資格「学校心理士」認定運営機構，認定委員
- ・ 『教育心理学研究』編集委員会，常任編集員
- ・ 広島市立古田中学校学校協力者会議委員
- ・ 文部科学省 生徒指導等関係事業審査委員会委員
- ・ 財団法人 こども教育支援財団ディレクター
- ・ NPO 広島産業カウンセリング研究会自由区顧問
- ・ 日本学校教育相談学会中央研修委員
- ・ 日本学校教育相談学会論文審査協力委員
- ・ 日本ピア・サポート学会研究紀要委員長
- ・ 東広島市青少年問題協議会委員
- ・ 東広島市キャリア教育推進委員会委員
- ・ 東広島市平成 21・22 年度新・学校教育レベルアッププラン推進委員会委員
- ・ 広島県立広島中学校・広島高等学校学校関係者評価委員

## 6. 研究紀要の刊行

学校教育実践学研究（第16巻）の刊行